

第69期 株主通信

2022年4月1日 ▶ 2023年3月31日

佐藤食品工業株式会社

証券コード：2814

株主の皆様へ

平素は、格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
ここに、当社第69期（2022年4月1日から2023年3月31日まで）の事業の概況をご報告申し上げます。

2023年6月

代表取締役社長 上田 正博

業績ハイライト

当社WEBサイトでは、決算短信や有価証券報告書など、詳細な財務情報を提供しております。

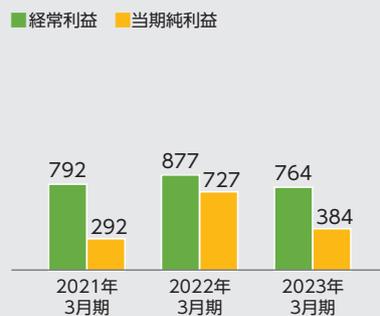
佐藤食品 IR

検索

売上高／営業利益（単位：百万円）



経常利益／当期純利益（単位：百万円）



総資産／純資産（単位：百万円）

自己資本比率（単位：％）



役員一覧（2023年6月23日現在）

代表取締役社長	上田 正博
取締役	鈴木 宗行
取締役	大津 新司
取締役	稲垣 篤
取締役相談役	長谷川 憲治
取締役（社外）	秦 博文
取締役（社外）	光田 博充
監査役	垣見 泰年
監査役（社外）	串田 正克
監査役（社外）	稲石 純二
監査役（社外）	関谷 保仁

会社概要（2023年3月31日現在）

本社	愛知県小牧市堀の内四丁目154番地
設立	1954年10月
資本金	36億7,227万5千円
従業員	170名
工場	本工場 愛知県小牧市 第二工場 愛知県小牧市 第三工場 愛知県春日井市

株式の状況（2023年3月31日現在）

発行可能株式の総数	27,000,000株
発行済株式の総数	4,215,048株 (自己株式5,111,412株を除く)
株主数	1,079名

株主優待制度のご案内

対象	毎年3月31日現在の株主名簿に記載された100株以上の株式を保有される株主様
優待内容	100株～499株 500円相当の当社製品（茶エキス粉末）
	500株～999株 1,000円相当の当社製品（茶エキス粉末）
	1,000株以上 3,000円相当の当社製品（茶エキス粉末）
発送時期	毎年6月を予定しております

佐藤食品の茶エキス粉末

当社の茶エキス粉末は、水に溶かすだけで、誰でも簡単に本格的なお茶をつくることができます。冷水にもお湯にもサッと溶けるので、大変便利です。おいしさはもちろん、持ち運びも簡単で茶殻が出ない等、様々な特徴を有しております。是非この機会にご賞味ください。



単元未満株式の買増・買取制度について

口座のある証券会社へお申し出ください。特別口座を開設されている株主様は、口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社（TEL 0120-782-031）までお申し出ください。

2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用しております。（※2021年3月期の数値は適用していません。）



Sアトーは、独自の「粉末化」技術で 天然食品の可能性を追求し、グローバルワンを目指します

製品分野のご紹介



茶エキス ● 売上高：2,511百万円

緑茶、ほうじ茶、紅茶、烏龍茶、麦茶、玄米茶、抹茶、ジャスミン茶、ルイボス茶等

お茶本来の風味を余す所なく粉末化

用途

インスタント茶、給茶機・カップ式自動販売機、製菓、健康食品など



天然調味料 ● 売上高：2,527百万円

鰹節エキス、昆布エキス、椎茸エキス、酢、魚介エキス（鮭、エビ、真鯛）等

※粉末調味料と液体調味料を合算して表示しております。

天然素材の豊かな味と香りを閉じ込めました

用途

つゆ、たれ、スープ、ドレッシング、製菓、プレミックスなど



植物エキス ● 売上高：710百万円

イチゴ、レモン、巨峰、りんご、バナナ、オレンジ、ブルーベリー、栗、ゆず、ネギ等

果実や野菜のフレッシュな風味をそのまま粉末化

用途

製菓、健康食品、粉末飲料など



粉末酒 ● 売上高：126百万円

赤ワイン、白ワイン、清酒、ブランデー、ラム、みりん等

世界主要17カ国で製法特許を取得！当社の名を
世界に広めたオンリーワン技術です

用途

製菓、プレミックス、スープなど

当期の概況

当事業年度における我が国経済は、6月に新型コロナウイルス感染症（以下、「本感染症」といいます）の新規感染者数が減少したことを受け、外国人観光客の受け入れ再開など感染拡大防止に伴う行動制限が緩和されたことから、社会経済活動の正常化が進みました。その後、本感染症の新たな変異株により新規感染者数が増加する局面があったものの、これまでのような行動制限策が講じられなかったことから、個人消費にも持ち直しの動きが見られました。一方で、各国の金融政策見直しに伴う為替相場の変動や、物価上昇による実質賃金の減少から消費マインドの低下が懸念されるなど、依然として先行き不透明な状況が続くものと予想されます。海外経済につきましては、世界的に本感染症の規制が緩和され、社会経済活動の正常化が進むものの、欧米の金融引き締めによる景気の下振れリスクや、長期化するロシア・ウクライナ情勢など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当食品業界につきましては、本感染症の感染拡大により落ち込んでいた外食需要やインバウンド需要に回復の動きが見られるものの、為替相場の変動などによるエネルギーコスト及び原材料コストの上昇や、物価上昇に伴う消費者の節約志向の強まりから、厳しい事業環境となりました。

当社といたしましては、顧客、取引先及び従業員の安全確保を最優先に、社内の感染拡大による一時的な操業停止のリスクを避けるため、マスク着用や手洗い消毒などを徹底し、国内の感染状況に応じて営業活動や来客対応の制限などの対策を行うとともに、変化、多様化する消費者ニーズやエネルギーコスト及び原材料コストの動向を注視しながら事業活動を継続してまいりました。

このような状況のもと、当社の当事業年度における売上実績は、茶エキスを中心に緩やかな回復基調で推移しました。

当事業年度における売上高は、茶エキスにつきましては、外食・オフィス需要に回復の動きが見られたことから、緑茶エキス・ほうじ茶エキス・麦茶エキス等が増加したため、売上高は2,511百万円（対前年同期比8.3%増）となりました。

粉末天然調味料につきましては、粉末ソース等が減少したものの、外食需要の回復傾向により粉末鰹節・粉末昆布等が増加したため、売上高は1,822百万円（同0.7%増）となりました。

植物エキスにつきましては、外出機会の増加を受け土産などの製菓用途需要に回復の動きが見られたことから、果実エキス等が増加したため、売上高は710百万円（同0.7%増）となりました。

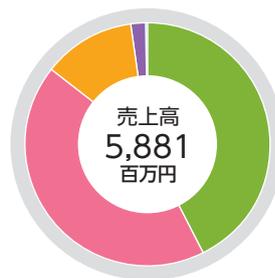
液体天然調味料につきましては、家庭内調理需要の継続や外食需要の回復傾向により、昆布エキス・椎茸エキスが増加したため、売上高は704百万円（同3.0%増）となりました。

粉末酒につきましては、ラムタイプ・ブランデータイプ等が減少したものの、インバウンド需要などに回復の動きが見られたことから、ワインタイプ等が増加したため、売上高は126百万円（同5.6%増）となりました。

以上の結果、当事業年度の売上高は5,881百万円（同4.2%増）となりました。

利益面につきましては、原材料及びエネルギーコストの増加により営業利益は618百万円（同21.0%減）、経常利益は764百万円（同12.9%減）となりました。また、遺留分侵害額329百万円を計上したため、当期純利益は384百万円（同47.1%減）となりました。

売上高構成比



- 茶エキス / 42.7%
2,511百万円
- 天然調味料 / 43.0%
2,527百万円
- 植物エキス / 12.1%
710百万円
- 粉末酒 / 2.1%
126百万円
- その他 / 0.1%
6百万円

中長期の取り組み

特に下記の3点を重点課題として取り組んでおります。

① 安全・安心な製品の提供

品質保証プロセスにおけるITシステムを活用した業務改善。

② 生産性の向上及び合理化

原材料コスト変動リスク等に対処した、利益を生み出しやすい生産体制づくり。

③ 高付加価値製品の開発

製販一体となって、顧客ニーズの開拓、それにすばやく応えることができる体制づくり。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。